

モードは語る

中野 香織

代表作は「皇帝」自身

ファッション界の事情には疎いという方も、カール・ラガーフェルドなら知っている。銀髪のポニーテールに黒いサンングラス、高い襟のシャツに黒いスーツ姿の「皇帝カール」はキャラクター化され、中国の農民までもがそのピンバッジを作業服の襟につけている。

浮き沈みの激しいモード界で半世紀にわたりトップに君臨し続けてきたデザイナー。2019年に他界してなお語られる。というか他界したからこそ、生前に皇帝に付度（そんたく）し黙っていた人々も語り始めた。そのように表に出てきた証言、生前のインタビュー、史実を組み合わせ、一大モード帝国を築いたドイツ生

ラ ガ ー フ ェ ル ド 伝 記

まれの皇帝の一生を生々しく描きだす。それが本書「カール・ラガーフェルドモードと生きて」だ。

ディオールならニュールックというふうにデザイナーは代表的な作品を残すものだが、カール・ラガーフェルドにはそれが無い。だが、彼はどんなデザイナーよりもはるかに多くの仕事をこなしてきた。クロエ、フェンディ、シャネルといった既存のブランドを生まれ変わらせ、成功をもたらすことによって、自らの富と名声と権力を高めた。ファストファッションとの協働を先駆け、清涼飲料や車や交通安全委員会ともコラボする。高価なオートクチュールを手掛けながら、チ



皇帝カールの実像を描く
(山本知子・金丸啓子訳
早川書房、3520円)

ープなキャラグッズとなって大衆レベルで有名になっていく。前例のない成功を築き上げた秘訣は何なのか？

周囲の狂騒に踊らされない仕事への没頭だ。とはいえモード界はそれだけで成功できるほど単純ではない。虚飾の世界での名声も必要なのだ。後者の世界に通じるための愛人を養うという寛容さを発揮し、古い関係は切るという冷酷な所業も断行する。その愛人もからむイヴ・サンローランとの確執は、天才モーツァルトと秀才サリエリの関係にも例えられる。「それなら、サリエリの方が幸せな人生だったということだ」と返す皇帝の名言にしびれながら、彼が残した代表作はほかならぬ彼自身だという感慨が読後にじわり残る。「かわいい」カールのピンバッジが皇帝の底知れぬ賢さの不敵な象徴にも見えてくる。 (服飾史家)